

## 柱 3

### 日常生活を充実する

～学校、家庭、地域との間に「確かな学力」について十分な共通理解を図り、児童生徒の学力や学習状況を共有し、それぞれの機能を十分に発揮させる～

柱3にかかわっては、児童生徒が日常生活の様々な活動がよりよいものとなるよう、学校、家庭地域がそれぞれの機能を十分に発揮し、一体となった教育を一層推進する必要があります。特に、保護者や地域住民と共に児童生徒の生活習慣を定着させたり、地域を学習の場として活動を展開したりする取組を工夫することが重要です。

#### 【提言1】

生活のリズムを整える

#### 【提言2】

地域住民の力を学習に生かす

朝食を毎日食べているかどうかの違いから見た平均正答率(詳細: P120 参照)

#### 調査結果

% ( )内はH19

【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a 毎日食べる	62.4(80.6)	68.3(78.4)	48.2(60.0)	49.3(60.7)
b 全く食べない	42.8(67.2)	50.7(60.5)	28.6(40.0)	33.0(44.3)
a-b	19.6(13.4)	17.6(17.9)	19.6(20.0)	16.3(16.4)
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a 毎日食べる	74.4(81.9)	63.5(71.8)	61.4(72.0)	48.7(60.4)
b 全く食べない	61.9(71.4)	41.5(50.5)	43.9(54.0)	30.0(40.2)
a-b	12.5(10.5)	22.0(21.3)	17.5(18.0)	18.7(20.2)

#### 【参考】

学校に持っていくものを事前に確かめたり、同じくらの時刻に就寝したりしているかどうかの違いから見た平均正答率においても、毎日している児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率の差が大きい傾向にあります。(詳細; P120参照)

#### 傾向と考察

朝食を毎日食べているかどうかの違いから見ると、昨年同様、毎日食べている児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。例えば、小学校においては、毎日食べている児童と、全く食べていない児童の平均正答率がすべての教科においても15ポイント以上の差があるなどの違いが見られる。

毎日、朝食を食べる、決まった時刻に就寝するなど、生活リズムを整える必要がある。

今住んでいる地域の行事に参加しているかどうかの違いから見た平均正答率(詳細: P143 参照)

#### 調査結果

% ( )内はH19

【小学校】	国語A	算数A	国語B	算数B
a 当てはまる	62.2	67.7	48.0	48.9
b 当てはまらない	54.8	61.6	40.1	42.2
a-b	7.4	6.1	7.9	6.7
【中学校】	国語A	数学A	国語B	数学B
a 当てはまる	72.7	60.0	59.2	45.7
b 当てはまらない	70.5	57.0	55.3	42.4
a-b	2.2	3.0	3.9	3.3

#### 【参考】

海、山、湖、川などに行って自然のすばらしさを感じたりしているかどうかの違いから見た平均正答率においても、何度もしている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率の差がやや大きい傾向にあります。(詳細; P145参照)

#### 傾向と考察

今住んでいる地域の行事に参加しているかどうかの状況から見ると、小学校では、参加している児童の方がすべての教科において平均正答率が高く、中学校では、数学A、国語B、数学Bにおいてやや高い傾向が見られる。

社会体験や自然体験等を通して、そのよさが実感できるようにする必要がある。

## 【提言1】 生活のリズムを整える

### 具体方策

教育活動の中で、物や時間を大切にすることについて、児童生徒自身が自覚することができる指導を行います。

1日や1週間の学習の内容や量を振り返ることができるよう、帰りの会などで生活記録する機会を位置付けます。  
道教委作成資料4：「参考資料」P292参照

学校便り等で家庭学習の意義の重要性を説明するとともに、家庭学習の内容や時間などの目安を示します。  
事例9（P30）参照

「早寝早起き朝ごはん」を家族みんなで取り組んだり、家庭で、テレビをつけずに家族で会話する時間や読書の時間を確保したり、家庭生活について、「我が家の決まり」などを設けたりします。

「おはよう」「ただいま」など、生活の節目として大切なあいさつを家族みんなで実践したり、その大切さについて実感したり、話し合ったりします。

## 【提言2】 地域住民の力を学習に生かす

### 具体方策

退職教員等をボランティアとして活用し、放課後や休日を活かした学習の支援をします。  
事例10（P31）参照

公民館や公立図書館等において、学習内容や家庭学習の進め方等についての学習相談を行います。  
道教委作成資料5：「参考資料」P293参照

学生や地域住民を外部講師とする学習活動の支援や児童生徒の安全を守るボランティア活動を進めます。  
事例11（P32）参照

学校行事と町内会事業の関連を図り、地域の教育力を活用した効果的な体験活動を展開するようにします。

児童生徒が身近に活用することができる地域素材の教材を作成するためのワーキンググループを立ち上げ、校区内における体験活動の充実を図ります。

【事例9～学校便り等で家庭学習の意義や内容や時間などの目安を示します。】

家庭との連携を図った生活習慣・学習習慣の改善

上川管内旭川市立朝日小学校(中規模)

学級だより

スケッチブック [Sketchbook]

～40人が描く、世界にたった一つのアート～ NO.8



宿題と家庭学習について

先週から、毎日宿題を出しています。宿題は提出していただき、忘れることのないよう、ご協力とご理解をお願いします。

本小学校では、宿題と家庭学習の2本の柱で学力の定着を図っていくことにしています。ここでその2つの違いについて少し説明させていただきます。

《宿題》

目的は、次の二つです。

宿題を家庭で行うことによって、毎日学習の振り返りができ、学校から出される宿題なので、学習したことの定着を図ることにつながる。

上記のような目的から、学校から毎日宿題を出しはけませんし、提出も絶対です。提出された宿題返却することとします。

学校での学習と家庭学習の関連性や目的をしっかりと説明し、保護者等の理解を得よう努めます。

《家庭学習》

目的は、次の二つです。

自分の力で学習することを見つけ、自分で学習を展開できるようにする。(自学の力を育てる) 教科の枠にとらわれずに、自分のやりたいこと(計算や漢字、日記、調査など)に取り組め、学びへの興味・関心を高めることにつながる。

家庭学習は、宿題の発展型ととらえてもよいと思います。宿題では足りない部分を補ったり、もっと詳しく学んでみたいことに取り組んだりするのが家庭学習だと考えています。

家庭学習については、無理強いするものではありませんが、出来るだけ取り組んでいただきたいと考えています。

先週「ノートを2冊用意してください。」とお願いしましたが、これは、ノートを提出してもらっても、その日のうちに返却することが出来ないからです。1冊目を提出し、残っている方のノートを提出する日に、前日提出した2冊のノートを交互に提出していただきます。

学校として家庭学習にかかる時間や学習内容及び目標とすることを明記し、学校と保護者等が共通理解を図って、生徒の育成に努めます。

月日 《算数》 計算をしよう! 42      682 ×48      ×52	月日 《日記》 《はなぜ?》(自由研究)
《文章問題》	
式	答え

学校全体としての共通理解

	低学年	中学年	高学年
家庭学習	10分～20分	30分～40分	50分～90分
宿題時間	5分～10分程度	5分～10分程度	5分～10分程度
宿題の内容	家庭学習の習慣化が目的なので、机に向かうきっかけとなる短時間で終わらせる内容で、点検を確実にできるように各担任が工夫する。毎日の継続を重視する。		
家庭学習到達目標	時間割をそろえる筆入れの準備 家庭で机に向かう習慣の確立	時間割の準備に加え漢字の書き取りを中心とした復習を重視、予習は教科書の首読程度	時間割の準備に加え、予習・授業・復習の形の基礎を養う。特に算数を重視する。

取組の特徴

本実践は、学校と保護者が共通理解を図り、足並みを揃えて児童の学習を支えるよう工夫しています。また、家庭学習の具体的な例を明記し、保護者の協力と理解を得るように工夫しています。

**■地域住民の力を学習に生かす■**

【事例10～退職教員をボランティア等として活用し、放課後や休日を活用した学習の支援をします。】

**小・中学校 学力STEP (ステップ) アッププロジェクト  
 E (Echo) プロジェクトの実践から**

**石狩管内江別市**

**■ 取組概要**

主体的に学ぶ意識を高め、学習習慣を確立するため、放課後や土曜日、長期休業中における地域の人材（退職教員、ボランティア等）を活用した学習支援の機会の充実に努めた。

**■ 取組の実際**

- ・放課後や土曜日、長期休業中に一人一人の課題に応じた学習に取り組む機会を設け、地域人材の活用による学習支援を行うことにより、生徒の学習意欲を高めるとともに、望ましい学習習慣を確立することをねらいとして実施した。
- ・対象生徒を中学校第1学年及び第2学年の希望者として実施する。生徒は「漢字検定へ挑戦したい、予習をしてさらに理解を深めたい、家庭学習の課題等に応じた学習支援を行った。」

退職教員の方々を活用し、生徒一人一人の学習意欲を高めるために、個に応じた学習指導を展開します。

**〔学習内容〕**

教科	学習内容
国語	漢字検定への取組と関連させた漢字の繰り返し学習
数学	一人一人のつまずきに応じた補充的な学習
英語	英語検定への取組と関連させたコミュニケーションを中心とした学習

※国語と英語については、検定への取組と関連を図った学習内容とし、具体的な目標をもって学習に取り組み、学習の成果をより実感できるようにした。

- ・学習支援を通して、生徒は次のような感想をもつなど、学習習慣の確立が図られた。

**大事なところを丁寧に教えてくれて、リスニングが好きになりました。** 君

**もともと数学が好きだったので、復習できて楽しいです。** さん

**漢字カルタや四字熟語など、いろいろな方法で勉強でき、楽しく漢字を覚えられました。** 君

**繰り返し学習するとテストで解ける問題が増えました。** さん

**■ 成果**

- ・授業で定着が十分でなかったところを学習支援で補ったり、放課後の学習で学んだことを生かして授業を展開したりするなど、双方向で生徒の学力向上に取り組むことができた。
- ・つまずきを克服したり、漢字検定や英語検定に合格したりするなど、学習の成果を実感することにより、新たな課題に挑戦したり、進んで学習に取り組んだりするようになった。

生徒が自信をもって学習に取り組む、さらに新しい課題を見付け、取り組むことができるように支援します。

**■ 課題**

- ・生徒の学習意欲がさらに高まるよう、放課後や休日の学習との取り組む必要がある。
- ・学年の発達段階や生徒のニーズに応じ、学習内容を工夫する必要がある。
- ・本事業の家庭への啓発について一層工夫し、家庭学習の習慣の確立に努める必要がある。

**◆◆ 取組の特徴 ◆◆**

本実践は、個に応じた指導の充実に努めるため、経験豊富な退職教員をボランティア等として活用し、きめ細かな指導を通して生徒が安心して学習に取り組むことができるよう工夫しています。また、生徒が学習に対して自信をもち、学習の成果を実感することができるよう、新たな課題に挑戦させるなどの工夫をしています。

**実践提案**  
 < 提言 2 から >

地域住民の力を学習に生かす

【事例 1 1 ~ 外部講師による学習活動の支援や児童生徒の安全を守るボランティア活動を進めます。】

子どもたちが、自分の生き方や考え方を見つめ、生活を豊かにすることができるよう地域の外部人材を活用した取組を進めます。

十勝管内清水町立清水小学校(中規模)

【教科等における学習ボランティア】

- 「イキイキ支援活動」
- ・対象教科：書写
  - ・外部講師：書写ボランティア（書家）
  - ・対応：第 5、6 学年
  - ・活動の様子

楷書における点画や字形の変化を理解することを目標に、書家である外部講師との T T の授業を行っている。  
 外部講師は、実際に筆遣いや筆運びを演示ながら、基本になる点画について説明をします。

【教師の声】

子どもたちは、できあがった作品に満足感や充実感を感じ、その後ノートや展示物には、ていねいな文字が書かれるなど、文字をかくことに対する興味・関心の高まりが見られた。

【子どもの安心安全に向けたボランティア】

- 「ホカホカ見守り活動」
- ・対象：登下校時
  - ・外部講師：清水っ子見守り隊（地域住民）
  - ・対応：全校児童
  - ・活動の様子

活動の全体計画や地域の不審者情報マップ等を作成し、毎週、月曜日、金曜日の 2 回、児童の下校時に、安全定点指導及び巡回指導を行っている。子育て応援組織「北海道すきやき隊」にも登録されている。

【保護者の声】

低学年の子どもたちが、友だち数人と歩いており、学校まで安心して登校でき、よいことだと思いました。また、男子児童数名が、横断歩道ではないところをわたっており、上級生が注意する姿が見られ、学級での指導の様子が伺えました。

外部人材を活用した活動の 4 つの視点

教科等における  
学習指導ボランティア

イキイキ支援活動

【検証の視点】  
 指導者の役割の明確化と身に付けさせたい力の明確化

- ・書写ボランティア
- ・読み聞かせボランティア
- ・家庭科支援
- ・クラブ活動支援

子どもの安全安心に向けた  
支援ボランティア

ホカホカ見守り活動

【検証の視点】  
 安全・安心の確保と保護者や地域住民との触れ合いの機会の充実

- ・「っ子見守りたい」
- ・おはよう交通安全指導
- ・スケートリンク造成
- ・地域参観日
- ・おやじの会

町行政や地域の関係機  
関と連携した活動

ドキドキ体験活動

【検証の視点】  
 豊かな体験による子どもの課題意識の醸成や豊かな心の育成

- ・ベンチャーズ支援事業（商工青年部）
- ・生活リズム向上推進事業
- ・酪農、農業体験事業（J A 青年部 ほか）

子どもの生活リズムの  
向上を目指した活動

ワクワク放課後活動

【検証の視点】  
 集団遊びや異学年の交流などの促進による子どもの居場所づくり

- ・放課後子どもプラン推進事業
- ・学校施設開放事業

取組の特徴

本実践は、児童が、学習したことが自分に身に付いているという実感をもつことができるよう、多様な分野の外部講師を招くなどの工夫をしています。また、児童自身が自らの生き方等について考えることができるよう、専門的な知識を有するボランティアや経験豊かなボランティアに協力を依頼するなど、町全体で取り組めるよう工夫しています。